

牧会 / 社会 / 神学

第5回日本伝道会議の論点②

近年、宣教の分野で「ディアスポラ」という概念が注目されてきている。ディアスポラ宣教に一番はじめに従事して下さったのはイエスさまだ。主は人間の救いのためにこの地上に来てくださり、愛の福音を伝えてくださった。人間はアダムとイブが創造主から離れた時からずっと、誰もがディアスポラだ。「ディアスポラ」という言葉を聞く、離散したユダヤ民族のことを思う。だが、現代の宣教では、それに加えて好むと好まざるを問わず、母国から他の国に移住、亡命、滞在している人々を含めて使われている。

89年のローザンヌ世界伝道会議で話し合われ、2000年に沖縄で開かれた第4回日本伝道会議で討議された「ディアスポラ宣教」の課題は、今に至るまでいろいろな形で協議がされてきた。今回の第5回日本伝道会議ではそれらを踏まえ、実際に進められている多種の働きを整理した発表がなされようとしている。

ディアスポラ宣教協力「架け橋」として歩み始める時

ポットライトを当ててスタートしようとしているのでもない。日本プロジェクト宣言50年、そして100年の頃にはほんの少しの人々の動きがあっただけだったが、今や世界中に100万人以上の日本人が居住し、また国内には

200万人を超える外国人が住んでいる。そして、従来の伝統的な枠組みを遙かに超えた種々の協力が、あらゆる形でなされている。

世界宣教へとつながりをもつ

「ディアスポラ宣教は今ムーブメントになりつつあると言える。クリスチャン新聞でも大きく取り上げられたように、3月下旬に熊谷で開かれたANRC(オール・ネイションズ・リタナーニズ・カンファレンス)に600人が集まり、互いが励まし、励まされ、慰めと力を受け、日本として世界の各地に遣わされていった。国の中と外、教派や教団という枠を超え、それぞれがつながりを持ちながら歩んでいくこのよ

うな「ディアスポラ・ムーブメント」が、これから確実に進んでいくだろう。今までは「とか」「このままでは...」ではなく、主が成してくださっていることを主ご自身の視点で見たいというのではないか。日本の教会という時、世界各地にある日本語教会のことを私たちは忘れてしまった。また日本人の救いという時、私たちは海外にいる日系人や日本人のこともきちんと含めていたのだろうか? 海外で救われた人たちの多くが日本の従来の教会に定着しないと言われている現実を、私たちは日本の教会という眼鏡で見えてこなかったのだろうか? イエスさまは、私たちの罪のために十字架にかかり、血を流し、肉を裂かれました。愛を示してください。こうして主ご自身が「架け橋」となってください。私たちが「神さまに立ち返る人」として生きる決断をし、そ

して他の方々に関わっていきように生かされている。このプロジェクトに参加するみなさんが、帰国者の、そして日本の教会の「架け橋」として歩んでいる方々との出会い、そしてみなさん自身が「架け橋」として歩み始めるスタートの時となればと私は夢見ている。

英国人の53%が死後の世界信じる

【ロンドン=ロイター】英国の神学シンクタンク「セオス」が2千60人を対象に行った調査で、幽霊や超自然を信じる人の多いことが分かったと4月13日発表した。コムレス調査社に委託して08年10月から11月に

教会が教会であるために

精神障害と教会 50

『無力』の大切さ

向谷地 生良 (むかいやちいくよし) 北海道医療大学看護福祉学部教授、浦河日赤病院ソーシャルワーカー、1、「べてるの家」理事と三足のワラジを履いて活躍中

読者の方から貴重な経験談をいただきました。教会につながっている精神障害をもつ方との交流の体験です。その方は、偶然にも教会に集うことになった精神障害をもつ女性と教会を通して交流を重ね、礼拝を共にし、食事に招いたりしながら励まし続けたそうです。おそろしく病状も不安定で、お互いに様々な苦労があったようです。その方のためを思って、したことがよい結果につながらなかったり、何か出来ればと思つて、熱心になればなるほど、周囲の人も思切れてしまい、どのように関わったらよいか途方に暮れることもあり。しかし、この辛さは精神障害をもつ当事者の側も同じで、余計な心配をされたり、気を遣われたりして、それが本人を追い詰め、疲れさせることにもなります。「安心して暮らす」というお互いがもつ当たり前の慎ましい希望が、感情的なもつれに発展し当事者が教会から遠のくことも少なくありません。今回、ご投稿いただいた方が関わった女性も、そのようなことから教会を変わった経験をおもちのようです。苦勞続きの日々を過ごす中で、女性との関わりは、もう無理かなと思つて、手を引いて神様に委ねることに決心した後、彼女のほうから「助けてください」と電話

愛は神様に委ねる思いから

「無力さ」と、ご本人の回復を信じ、神様に委ねる思いによって、はじめて成り立つということ。そこでは、元氣を取り戻したご本人から「あなたのお陰で」と言われたいが、それが大切になってきます。次に、現実にかえる生きづらさを、聖書の言葉に照らし合わせて話し合うという方法は、本当に感心させられます。なぜなら、聖書の言葉は大切な生活の「マニュアル」だからです。

超教派 第56回 オリーブの里聖会
2009年5月15日(金)~16日(土)
祈りの家 日光オリーブの里
『聖書からみた“霊”の理解とリバイバル』
『終末への備えとしての世界宣教』
講師 安海 靖郎 先生 東京めぐみ教会牧師
第57回 オリーブの里 聖会
2009年6月19日~20日
講師 東京神学校校長 尾山 令仁 師
祈りの家 日光オリーブの里 0288-21-7693 FAX 0288-21-7699

主にある諸教会および皆様へ
すでに報道されている当教団所属牧師の逮捕(ひき逃げ容疑)に際し、皆様には大きな痛みと憂いを与えることとなり、またことを深くお詫び申し上げます。
被害者の方の一日も早いご回復をお祈りいたします。
私もは事実関係を把握し、適切な対応に努めて参ります。誠実な対処ができるように、引き続きお祈りくださいますようお願い申し上げます。
二〇〇九年四月二十日
日本ホーリーネス教団 教団委員会

もっとたくさんのクリスチャンに
広告を掲載して
クリスチャン新聞
原稿をメールまたはFAXで送るだけでOK! 写真も載せられる!
タテ65×ヨコ78.6mm モノクロ ¥35,700(税込)
お問い合わせ 101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル5F Tel.03-3291-8525 Fax.03-3291-6715